

富士の画家 龍 駿 介 略歴

龍駿介は、富士山を専門に描いた近代日本の洋画家で、戦前から戦後にかけて活躍し、富士山の四季やさまざまな景観を題材にした油彩作品を多く残しました。

明治二十二年 福岡県三池郡高田町で父種次郎、母シカの次男として生れる。

本名は龍清六。

明治四十二年 洋画研究のために上京、遠山五郎に師事。

大正 八 年 福岡市に転住し、福岡市長や陸軍大将などを発起人とした「龍駿介後援会」が結成される。

大正 十 年 再び上京し、川端画学校洋画部に学ぶ一方、帝展審査員の山本森之助に師事。

昭和 二 年 第十四回光風会美術展から連続十回出品する。光風会展や白日会展に入選するなど、洋画家として評価を高める。

富士山の表現と紹介に生涯を打込む決意をし、白木屋、伊勢丹、東京高島屋、大阪大丸などで富士油絵展を二十五回開催。

昭和 五 年 帝展審査員の南薫造に師事。肖像画家としても名を成す。

昭和 七 年 八年まで熊本県天草に滞在。風景画を多数制作。

昭和 八 年 秩父宮雍仁親王が満洲国の首都、新京（現在の中国・長春市）にあった新京大使館の御部屋用として四点を御購入。

昭和 九 年 満州に渡り、風景画を多数制作。

昭和 十 年 三月頃、龍清六から龍駿介に改名。

昭和 十 一 年 外務省が購入。

昭和 十 二 年 光風会展に「富士山」が入選。

〃 大韓帝国最後の皇太子・李垠が「那須風景」を購入。

〃 独国アドルフ・ヒトラー総統、伊国ベニート・ムッソリーニ首相への贈呈画となる（広田弘毅外務大臣の斡旋で渋谷正吉が贈呈）。

〃 満洲国皇帝陛下（映画『ラストエンペラー』で知られる愛新覚羅溥儀）への献納画となる（広田弘毅外務大臣の斡旋で渋谷正吉が献納）。

昭和 十 三 年 近衛文麿総理大臣への贈呈画（贈呈者は石井光雄日本勧業銀行総裁）。

〃 『龍駿介画集』第一集を刊行。

昭和 十 六 年 汪兆銘中華民國国民政府主席への贈呈画（贈呈者は東京日日新聞社と大阪毎日新聞社）。

昭和 十 六 年 閑院宮載仁親王への献納画（献納者は日仏協会）。

昭和 十 七 年 『龍駿介画集』第二集を刊行。

〃 バー・モウ（ミャンマー行政府長官）への贈呈画（贈呈者は毎日新聞社の会長、高石真五郎）。

昭和二十一年 信州の疎開地から帰京。

昭和二十二年 内閣総理大臣、幣原喜重郎が購入。

昭和二十三年 銀座の松坂屋、日本工業倶楽部で富士油絵展開催。

昭和二十四年 大阪、阪急百貨店美術部で富士油絵展開催。

昭和二十五年 財団法人国立公園協会が設立され、会長の佐藤尚武から専門委員を委嘱される。

昭和二十六年 佐世保市公会堂で富士油絵展を開催。

昭和 三 十 年 三月、長崎県知事の西岡竹次郎から西海国立公園実現の功により感謝状が贈られる。

同時に佐世保市長、玉之浦町長、三井楽町長、鹿町町長、生月町長からも感謝状が贈られる。

昭和三十一年 前毎日新聞社取締役会長の高石真五郎を会長に、約五十名が発起人となって「龍駿介画伯後援会」が結成される。

〃 日本工業倶楽部、高島屋、銀座画廊などで後援会結成記念の富士油絵展を開催。

〃 熊本県知事の桜井三郎から感謝状が贈られる。

昭和三十二年 大阪、神戸、名古屋などで富士油絵展を開催。神戸新聞社後援にて神戸新聞会館で個展開催。

昭和三十五年 毎日新聞社静岡支局後援展を開催。

昭和三十六年 福岡市丸善画廊、姫路市姫路商工会議所で個展開催。

昭和三十八年 外務省が「富士」を二十万円で購入。

昭和六十三年 永眠

